

## ◆一華会展の様子



赤澤恵雪事務局長の  
開展式挨拶



山田翠香副会長による作品解説

### <表彰式並びに席上揮毫>



藤田幸司毎日新聞社福山支局長様のご祝辞



三宅華邦副会長より大賞  
の宗藤さんへ賞状授与



大賞受賞の宗藤満枝さんの揮毫



同人特別賞受賞者の揮毫  
西中千代子さん(左)と堀裕子さん



審査員の先生と受賞者全員で記念撮影

## <懇親会>



大楽悠雪会長代行による開会あいさつ



毎日新聞社広島支局長堀雅充様による乾杯の音頭

## <ワークショップ>

展覧会最終日、ふくやま美術館において「草書に取り組もう」をテーマに孫過庭の『書譜』を主に筆の折り返しに苦労しながら参加者は熱心に取り組んでいた。指導には児玉恒風展覧会部長があたり、20代から70代までおよそ30名近い人数の参加があった。



指導者の児玉恒風さん



参加者の皆さん

## <併催臨書作品コーナー>

毎回恒例になっている役員による臨書作品コーナー、今回展は『古典に親しむ』をテーマに16点の作品展示があった。

その内容は西周時代の『麥方鼎』から「敦煌漢簡」、王羲之の『姨母帖』、『魏靈蔵薛法紹造像記』、懐素の『自叙帖』、包世臣の『萃百花園五楽詩』『左繡叙』までの時代を問わず、それぞれが書きたいものに取り組んだ。

来場者たちは、千葉幽篁理事長の一つ一つの作品について、いつの時代に、どこに、何に、何の目的で内容は等の解説を聞きながら、鑑賞し、臨書の理解を深めていた。



千葉幽篁さんの解説